

3. 課題の調査・分析

本節は、各協議会が提出した最終報告書を基に横断的な分析を行ったものである。

各協議会の推進枠、一般枠ともに課題調査のため、アンケート調査とヒアリング調査を主に行った。アンケート調査は、推進枠は13件、一般枠は15件であり、ヒアリング調査は推進枠で16件、一般枠で12件であった。各協議会において複数の調査を行っているため、サンプル数Nが協議会の数を超えている（図iv-3-1、iv-3-2）。

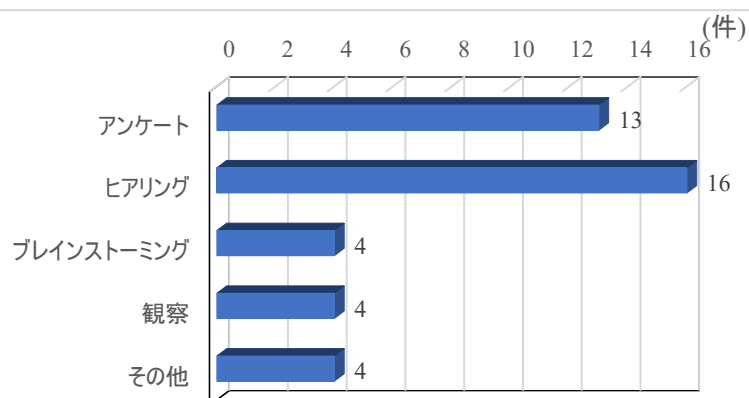


図 iv-3-1 課題の調査・分析方法
(推進枠 N=41)

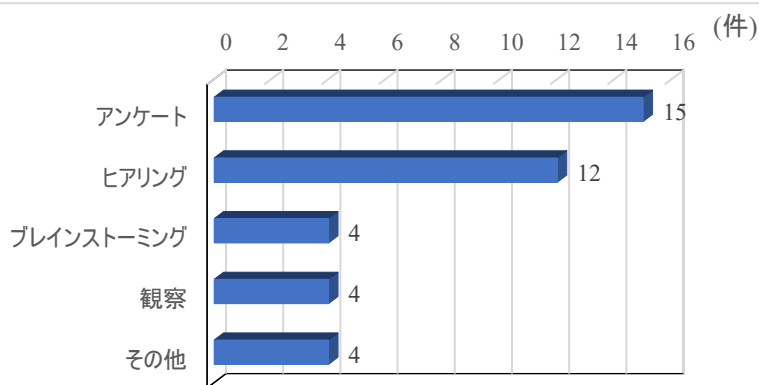


図 iv-3-2 課題の調査・分析方法
(一般枠 N=39)

協議会は上述の課題調査をさまざまな職種に対して行った。ここでは調査において対象となった職種の、その回数をカウントし分析を行った。推進枠、一般枠のどちらも、介護職が最多となり、推進枠は18回、一般枠は20回であった。次いで被介護者が推進枠で7回、一般枠で6回、作業療法士が推進枠で4回、一般枠で6回となった。各協議会は一度の調査で複数の職種を対象とすることもあり、また複数回の課題調査を行っているため、サンプル数Nが102と大きくなっている（図iv-3-3）。協議会は介護ロボットの利用者となる介護職の方や被介護者の声をもとに課題の調査を行ったと考えられた。

